

創設40周年記念号

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 81 号

令和3年3月発行
(2021年)

編集者 内藤 文隆

発行 三水会(北里大学
海洋生命科学部同窓会)

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次／	P.1	卒業生祝辞	P.6
三水会創設40周年会長挨拶	P.2	卒業生祝辞	P.7
学部長祝辞	P.3	卒業生祝辞	P.8
初代会長祝辞	P.4	卒業生祝辞	P.9
二代会長祝辞	P.5	お知らせ	P.10

三水会創設40周年記念

北里大学水産学部・海洋生命科学部の沿革

昭和30年 岩手県気仙郡三陸町(現大船渡市)三陸町に水産学部を開設
水産増殖学科・水産食品学科を設置
昭和31年 大学院水産学研究所修士課程を設置
昭和32年 大学院水産学研究所修士課程を改組
昭和33年 水産学部水産増殖学科・水産食品学科を水産生物科学科に改組
大学院水産学研究所水産学専攻を水産生物科学専攻に改組
昭和34年 水産学部水産生物科学科を海洋生命科学部海洋生物科学科に改称
昭和35年 3月11日(東北地方太平洋沖地震発生(東日本大震災))へ移転
教育・研究の拠点を三陸キャンパスから相模キャンパスへ移転
昭和36年 大学院水産学研究所水産生物科学専攻を海洋生命科学部海洋生物科学専攻に改称
M.B号館(海洋生命科学部棟)が完成
昭和37年 三陸キャンパスに附属三陸臨海教育研究センターを設置

三水会のあゆみ

昭和30年 会員相互の交流と北里大学の発展に寄与することを目的に北里大学水産学部同窓会(三水会)を創設

北里大学水産学部・海洋生命科学部 卒業生数

卒業年	卒業人数	卒業年	卒業人数	卒業年	卒業人数
2041	2011	179	1972	124	
2042	2012	165	1973	145	
2043	2013	163	1974	117	
2044	2014	170	1975	156	
2045	2015	195	1980	174	
2046	2016	184	1981	174	
2047	2017	177	1982	189	
2048	2018	189	1983	139	
2049	2019	184	1984	126	
2050	2020	187	1985	128	
2051	2021		1986	160	
2052	2022		1987	162	
2053	2023		1988	182	
2054	2024		1989	177	
2055	2025		1990	191	
2056	2026		1991	189	
2057	2027		1992	200	
2058	2028		1993	196	
2059	2029		1994	181	
2060	2030		1995	227	
2061	2031		1996	195	
2062	2032		1997	176	
2063	2033		1998	200	
2064	2034		1999	184	
2065	2035		2000	188	
2066	2036		2001	180	
2067	2037		2002	181	
2068	2038		2003	167	
2069	2039		2004	173	
2070	2040		2005	171	
2071	2041		2006	169	
2072	2042		2007	188	
2073	2043		2008	183	
2074	2044		2009	157	
2075	2045		2010	172	

令和3年 北里大学海洋生命科学部同窓会 贈

三水会より海洋生命科学部に寄贈の銘板



三水会より準会員に寄贈の太鼓台

回発行の会報やホームページを通じて三陸の様子を皆様に伝えることができます。しかし、機動力が限られているこれらでは旬な話題を適時的にお知らせすることは容易ではありません。三陸に行きたくなる衝動に駆られる刺激となる情報は、仲間内ではSNSが威力を発揮し瞬時に伝わります。常に情報入手に取り組みでいれば三陸にまつわる新しいニュースを得ることが可能でしょうが、距離的制約により思うに任せません。学部のホームページもいつも最新情報に更新されているわけではありません。

次の40年のための三陸情報の獲得術

こういった難点はネット検索で克服できそうです。キーワードの「北里」「越喜来」「三陸」などを組み合わせると思います。情報収集方法はいくつかありますが、最新情報に触れることができるのは気仙地区（大船渡市・陸前高田市・住田町）に密着した地元紙の東海新報と言えます。「東海新報」と「北里大学」を組み合わせると学部の歴史を物語る記事がいくつつかヒットします。さらに同誌の電子版を購読すると、キーワード検索により震災以降の同紙の過去記事のデータベースから学部ばかりでなく、その周辺の記事も入手することができ有用です。例えば旧第一校舎の北側に見下ろすことができた白い建物は、皆様ご存じだったでしょうか、以前は画家のアトリエだったそうです。それが現在は「越

喜来ハウルの船」と名付けられて宿泊可能な多目的施設として運用されているとの、掘り出しニュースもあります。

学部の2年生は海洋実習で三陸キャンパスを訪れます。これを継続することにより今後も卒業生の記憶に三陸が刻まれます。三陸情報にいつも触れていれば、41期生以前ばかりでなく42期生以降にも三陸を訪問する機運が備わります。次の40年が経過すれば2060年に三水会は八十周年となります。その時昭和47年（1972年）創立の学部は八十八周年を迎えます。末広がりを感じさせる巡りあわせであります。

再会を願って

新型コロナウイルス感染症の拡大により公私ともども日常の活動がままならないものとお見舞い申し上げます。筆者自身5名以上の会食（飲み会）は昨年2月中旬に大阪で開かれた三水会関西地区親睦会を最後に途絶えております。4月以降は少数の会食も酒類抜きを含めて皆無です。制約の多い2021年が続くとは思われますが、同感染症の収束後に再び皆様と相まみえることを楽しみにしつつ、ご多幸をお祈り申し上げます。

三水会創立40周年おめでとうございます。

北里大学海洋生命科学部長
菅野 信弘



この度は、北里大学海洋生命科学部同窓会・三水会の創立40周年を迎えられたことを心

よりお祝い申し上げます。

高橋会長をはじめとして三水会の皆様には、卒業生の親睦の場のご提供とともに、在学生の就職サポート等にも長年に渡りご協力頂いており御礼申し上げます。忘れてならないのは、東日本大震災時に頂いたご支援でしょう。特に、震災直後にご提供いただいたガソリンは、まさに命綱でした。ガソリンの確保、輸送にあたっては、長屋初代三水会会長をはじめとした多くの方々のご尽力があったものと推量いたします。あわせて、ご提供いただいたガソリンを地下貯油槽に入れることを快くお許し頂いた浦浜のよこがけ商店さんにもこの場を借りて改めて御礼申し上げます。震災復興時にも多くの卒業生の方が復興支援、海中瓦礫撤去等のボランティアにご参加いただいたものと思いますし、都内と三陸で開催された写真展「俺の三陸」等を拝見いたしますと、卒業生の三陸に対する想いに頭が下がる思いです。残念ながら学部の教育・研究拠点は相模原キャンパスに移すことになりましたが、三陸キャンパスに三陸臨海教育研究センターを設置し、学部の

「足場」を残すことができたことは何よりでした。三陸時代の卒業生には馴染み深い三陸研修所も撤去してしまいました。センター内に宿泊機能を設けておりますので、「三陸の我が家」としてお使いいただければ幸いです。

コロナ禍の影響で現4年次生の就職率がどうなるのか心配しておりますが、今のところ昨年度並みの推移となっております。しかし、経済活動が滞った状況を見ますと決して楽観視できません。一方、学部の志願者数の動向には18歳人口減少の影響が次第に色濃くなりつつあるように感じています。今後より一層、学部の魅力を発信していくことが必要ですが、学部の魅力あるいは評価は、学部教育を受けた卒業生が社会でどれだけ活躍しているかによるものであり、と考えております。卒業生の活躍＝学部教育の成果なのです。その意味で、同窓会が担う卒業生のネットワークと情報網は非常に重要です。強い学部は、強い同窓会なしには実現できません。その関係は車の両輪と言えるでしょう。今後とも学部と親密な関係を保ちつつ、より強い同窓会へと発展していただけることを期待いたします。

2022年4月には、水産学部・海洋生命科学部創立50周年を迎えます。学部では記念誌の発行、記念式典、記念講演会、三陸キャンパスのメンテナンクス等の記念事業を企画し、鋭意準備を進めているところです。学部の現教授陣は、創立当時の初代教授陣から数えて3〜4代目と

なっていますが、そろそろ退職の時期を迎えようとしています。従って、創立50周年記念誌は、学部が三陸時代を克明に記録できる最後の機会になるかもしれません。学部では記念誌を策定するものにするべく、奥村教授（水族育種生物学）を中心に編集を進めております。また、記念誌には三水会のページを設けると聞いております。同窓会の皆様におかれましては、創立50周年記念事業の意義をご理解いただき、物心両面でのご援助を頂きますよう改めてお願いする次第です。

未筆ながら、三水会の一層のご発展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

「三水会創設40周年」を祝して

76年卒（初代三水会会長）

長屋 信博



三水会創設40周年、心からお祝い申し上げます。

四十年の永きにわたって活動を支えてこられた、歴代の役員・代議員、事務局の方々のご労苦、そして卒業生の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

祝辞のご依頼をいただいた時、四十年の時の長さを想うとともに設立当時のことが昨日のことのように思ひ出されました。

三水会の設立に向けた準備は、一

期生の卒業から二年ほど経った昭和五十三年頃から進められました。就職して間もなくで時間的なゆとりもない中、世話役を引き受けてもらった方々に週末集まってもらい、規約や当面の事業等の検討を行いました。その中で名前を付けようということになり、学部長を務めておられた故松浦文雄先生にお願いし、原案として「三水会」の名前をいただきました。「三」は、卒業生、在学生、教職員が三位一体となり、キャンパスの置かれた三陸の地ともあること等の意味を、「水」は、水産学部、どこまでも広がる水の発展性を表している等の意味を込めたものであると先生から伺いました。素晴らしい名前をいただいたと今でも感謝しています。そして、昭和五十五年に学士会館で総会を開き三水会は発足しましたが、設立当初は予算もなく、役員全員で会報の袋詰めをしたこと、初めての地区親睦会として行った地曳き網のイベントに家族ぐるみで多くの方に参加いただいたこと等、楽しく思い出されます。

同じ時期、全学同窓会も体制と活動を見直していった時でした。水産学部の誕生で五学部体制となり、学部同窓会の活動も活発になっていきました。これを束ね、同窓会全体としての力を発揮していくことが求められていました。学部同窓会の意見を調整するため、白金キャンパスのテニスコートの横のささやかな事務局の部屋や相模原の会議室で幾度となく話し合いが行われたことを思い出します。当時会長として尽力さ

れ、後に学長兼理事長として大学の発展に大きな貢献をされた柴忠義元会長をはじめ役員の方々の若い頃の姿を思い浮かべ、厳しい議論をした当時のことを思い出します。

三陸での出来事も懐かしく思い出されます。百人を超える学生が初めて小さな漁師町で生活したのですから、当然、色々なことが起きました。地元への貢献という大学の考えから寮は設けず、下宿・アパートで地元の方々との生活となり、生活時間の違いから下宿の大家さんからは、「真夜中の九時に何を騒いでいるか。」という怒りの声が、学生からは、「下宿で出てくる食事は一週間以上も地元で獲れた同じ魚ばかり。」、等々、様々な不満の声が大きくなっていきました。「カルチャーショック」という言葉を辞書で引くと、「突然なじみの薄い文化また、生活様式、考え方の一式にさらされた誰かに影響を及ぼしている見当のつかない状態。」とあります。まさに、学生にとっても、地元の方々にとってもカルチャーショックの状態にあったと思います。大家さんの代表と夜遅くまで話し合ってお互いに理解に努め、その後も問題が起これると一升瓶を持つて話に伺ったことを思い出します。特にまとめ役を

果たしていただいた中嶋久吉氏にはお世話になりました。地元の小壁定置の代表で全国の定置網の関係者から神様と呼ばれる程の知識と技術を持たれた方で、後に越喜来漁協の組合長、県漁連の副会長を務められ、私も仕事の関係で大変お世話になりました。



1995年7月ホームカミングデイ三陸

が、中でもPRのために行った「大漁踊り」は忘れられない思い出です。大学の存在すら知られておらず、果たしてどれだけの人に来てもらえるのかという不安から、何かデモンストレーションをやるとういうことになりました。皆で悩んで、応援団の経験があつた吉川君を中心に、水産放浪歌、ドンパン節の北里版を作り、インパクトを狙った裸踊り隊も出し、前日、大船渡、釜石で大いに盛り上げることができました。漁火祭当日、大学に到着した満員のバスを見た時、涙が出そうになったことを思い出します。当時は、これが三陸キャンパス時代に伝統として永く受け継がれていくものになるとは考えもしませんでした。活躍した裸踊り隊の高野君、町田君が三陸の十一月終わりの寒さで風邪をひき寝込んだことは、今でも申し訳なく思っています。

今、歳を重ねて振り返ると、長い人生のほんの一瞬に過ぎない学生時代に、多くの楽しく貴重な経験をすることができ、語り尽くせない程の思い出を持つことができたことに感謝しているのは皆さんも一緒だと思います。

同じ学舎で学び、様々な思い出を共有する仲間は掛け替えのないものです。同窓の仲間の出合いを繋げ、集い、語り、伝えていく場づくりのお手伝いをさせていただくことが同窓会の一番重要な役割という考えで、四十年以上にわたって三水会、全学同窓会のお手伝いをさせていただきました。一緒に活動いただいた素晴らしい仲間から感謝します。

—三水会創設40周年の回顧—

三水会第二代会長
長谷川 一敏



三水会創設40周年、誠におめでとうございます。私は平成9年（1997年）〜平成21年（2009年）まで4期12年間、会長を務めてさせていただきました。

昭和53年3月卒業の水産増殖学科3期の長谷川です。この間、三水会の運営に際し、ご協力賜りました役員、代議員の方々はじめ会員の皆様に心より感謝申し上げます。私が長屋初代会長より三水会の襷を受け継いだ平成9年は22期生が卒業された年でした。この時の卒業生195名を加えると会員数は累計3444名

になり三水会も創設より17年が経過し活動も充実して来たころでした。会員の年齢も1期生が40歳を過ぎた頃で、三水会の運営にはまだまだ兄貴達に後押された記憶があります。拙稿では会長在任中の12年間を中心に三水会の活動を振り返ってみます。

—開拓から実践へ—

毎年5月に開催される三水会定期総会は、白金校舎E号館の古くて狭い講義室を借りての開催でした。北海道から九州まで全国から集った約50名の代議員は1期生から新卒生と年齢差はありましたが、誰もが学生時代に所属していた研究室やクラブ、あるいは各地区への思いを胸に熱心に議論を交わしました。会議終了後はお招きした学部長や恩師を交えての懇親会へとお決まりのコース。世代は違っても三陸という同じ釜の飯を食った仲間同士の集団、現在もこのスタイルに変わりはありません。

当時の同窓会事業で力を注いだのは以下の三点になります。

第一は会員への情報の発信です。

それまでは分厚い全学部の同窓会会員名簿が発刊され会員の手元に届いていましたが、平成17年に施行された「個人情報保護法」に伴い発刊はなくなりました。これにより活動に必要な名簿に載せる住所等の連絡先も本人の承諾が要るようになりました。（現在これは全学部会報に同封されている調査ハガキやホームページから出来ます）。また、年に2回

発行されている三水会報は平成19年の第54号よりA4版に拡大、一部カラー刷りとなりより見やすく親しまれるものになりました。そして、会員への情報がホームページの立ち上げによってより充実した内容を正確かつスピーディーに届けられるようになったのも大きな変化です。平成20年には三陸校舎F3号館屋上にネットワーキングカメラを設置してキャンパスの動画配信を開始。会員各位には大変好評を得ましたが平成23年に発生した東日本大震災により終了しました。

第二にOB会や親睦会等への助成の充実です。

三水会会員の約6割は勤務先を含め関東圏在住者が占めます。毎年小中学校の夏休みが始まる7月下旬、関東地区の会員と家族を主な対象とした親睦会を開催していました。毎回、水と魚介類をテーマに地曳き網・スタテ網・溪流釣り・潮干狩り等、多くの家族連れ会員に参加いただいていた。関東圏以外の会員に対しては、その地域で交流ができるように取り組みました。北海道・関西・九州

等での恩師をお招きしての地区親睦会がそれです。三区合わせてほぼ毎年開催され、現在も会員交流の



平成12年度定期総会にて、新規大漁旗のお披露目

場として活動が続いております。クラブOB会や研究室OB会等も盛んに開催されるようになっていきましたので、三水会から助成金の支給を始めました。これもなお継続しております。

第三は準会員への後援活動です。

将来三水会の仲間入りする在学生達との懇談会を通し、大学祭活動費の助成、課外活動助成としてクラブ活動等への準会員活動助成金や奨励金を贈っています。また、主に3年生を対象として毎年開催している「就職ガイダンス」は、職業別に卒業生が講師として自身の体験談等交え、より明確なガイダンスを行なっています。

以上、三水会の回顧でした。

—水産学部から海洋生命科学部へ—
一方学舎であった学部は大きく変化した時期でもありました。平成12年4月から水産増殖・水産食品の2学科が水産生物学科の1学科に改組され、その後平成20年には海洋生命科学部海洋生命科学科となり現在に至っています。学部長は平成6年に神谷久男教授、平成15年に尾玉正昭教授、平成18年には緒方武比古教授へと引き継がれました。先生方にはお忙しい中、三水会総会や記念事業などへのご臨席を賜り学部の近況説明などを含めてご挨拶をいただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

三陸キャンパスは平成4年にマリオンホールの通称で親しまれたF4校舎が完成。1階は屋内水槽室、2階

は大講義室、3階は学生食堂・売店、学生ホールで、この学生ホールから吉浜湾の眺望は素晴らしく、今でも目に浮かびます。

この頃より女子学生の占める割合が高まりました。3割以下だった女子も平成11年度には4割近くとなり、それ以降も3割程度を占めるようになり、学生生活にも変化があらわれ、かつての共同トイレ、共同風呂形式の下宿に代わり、バス・トイレ付き個室形式のアパートがめだつようになり、越喜来地区にもコンビニが本店し、都会化の波が学生の住環境や通学手段を変えていきました。

道路環境も大幅に改善されました。平成3年には、林道と称された、大平から大学方面に向かう道は片側一車線の対面通行になり、平成4年には新三陸トンネルが開通し大船渡方面へのアクセスは格段に時短となり大船渡までも通学圏になりました。当時、三陸峠越えの悪名高い三陸トンネルを通って行き来していた世代には羨ましい限りです。

平成13年、三陸町は大船渡市と合併、新たな大船渡市として歩んでいます。

しかしながら、学部は平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、相模原キャンパスに学びの場を移し、三陸キャンパスには平成26年4月より三陸臨海教育研究センターが設置されました。今年には相模原キャンパスに移転し10年が経過しました。貴重な教育の場としての三陸を知らないで卒業した会員も1000名以上になります。

これからも三水会が会の理念である卒業生、在校生、教職員一体となり歩んで行かれることを望みます。

結びに会員皆さまのご健康とご活躍、そして三水会および母校の発展を心よりご祈念し、挨拶といたします。

そんな時代：

83年3月卒
福崎 有紀子(徳田)

この度は三水会創設四十周年おめでとうございます。私は昭和五十四年四月に水産学部水産増殖学科に8期生として入学しました。近年は女子学生も半数近く在籍していると同っておりますが当時はとても少なく、同期生およそ140名のうち女子学生は8人という特殊な環境でした。二年生になり三陸に行ってもなくのある朝、部屋の窓を開けたら正面のガソリンスタンドで給油する母を見たときは驚きました。夜中に高速道路を走ってきたとのことでした。ひとり娘ということ心配だったのでしょうか。私も親になり、今ではその気持ちが変わります。

所属した剣道部では水産学部初の女子部員ということで、特に諸先輩の方々におかれましては取り扱いに困惑されたことと今でも思い出し、色々とご配慮いただきましたこと、ありがとうございます。東北大会ではベスト8が最高位でしたがお蔭さまで在学中に三段を取得することが出来ました。

四年生になり環境生態学講座のプ

ランクトン班で下村敏正先生の最後の教え子として「大船渡湾・越喜来湾および田瀬湖の植物プランクトン」を卒論のテーマとしました。田瀬湖での24時間サンプリングはとても印象に残っています。また、大船渡湾のある日のサンプリング、漁師さんから牡蠣を頂いたこともあり、そんな美味しい思い出はまだまだあります。三陸町議会議員選挙に立候補された、当時学食で働かれていた掛川氏のうぐいす嬢のアルバイトをした時に頂いた夕ご飯。あのイカの丸煮の美味しさは忘れられません。と、脱線してしまいました。ここで閑話休題。

当時、卒業論文をまとめるときは手書きでした。プランクトンの学名リストは英文タイプで作成しました。本文はひと文字ひと文字と原稿用紙の文字を増やす努力をしたのを覚えています。

就職をすることを諦めかけた頃、学生課の熊谷テイ子さんから「受けてみたら？」と声を掛けて頂いた帝

京大学医学部の外科学教室に就職が決まり、ホッとひと安心。卒業となり、外科学教室での仕事は医学論文の実験助手としてデータの



昭和57年研究室対抗野球大会、前列右端が井田齊教授、その左が筆者

作成からお昼ご飯の注文まで多岐にわたるものでしたが、論文に名前を載せて頂いたときは感激でした。その後、東京大学大学院医学系研究科疫学・生物統計学教室で臨床試験の割付業務に携わりました。その業務がNPOとして独立し、管理部門に配属され、事務職に落ち着いたおりに、とても感動的なことがありました。水産学部出身の後輩が入社。しかも女性(33期)。あの三陸生活を経験した同窓生です。25年も違いますが、共通の話題ももちろんあったりして、そんな話をするのがとても楽しいひと時でした。

月日が経つのは本当に早いもの、最近には特に実感しており、気が付けば私たち8期生は還暦を迎える年齢になりました。卒業してから38年です。今から10年前、私たちの三陸は途轍もない自然の猛威により壊れてしまいました。その年の夏、変わり果てた情景を目の当たりにしました。想像を絶する被害の大きさにただただ茫然。そして翌年から同期数名との三陸行が始まりました。釜石在任の同期生や浦浜の先輩、また当時お世話になった地元の方々に出会えるの楽しみにしています。残念ながら昨年は果たせませんでした。今年はどうなるのでしょうか。私たちが過ごした校舎も下宿も無くなってしまいました。思い出として消えることはありません。第2のふるさと《三陸》をいつも大切に思っています。

未筆ながら、三水会の一層のご発

展と皆様方のご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

40周年を記念して「今振り返って」

F A 23期（98年卒）北吉 直子

この時代になって、あの頃の事を振り返ってみると、なんとも不思議な生活であったように思われる。

この便利な時代になってみると、携帯電話も通じず、インターネットも無く、お店も早く閉まる世界で、あんなに楽しく暮らしていたなんて、そして、ふと、今の生活は便利だけれど楽しいのか？と思うのだ。

我々はちよどベビーブームが過ぎたあたりの学年で、人数が多かったように思われる。女子が30人ぐらいいはいたのではないだろうか。「新人類」と呼ばれていたと記憶している。そういうえば服装が派手だと先輩女子に言われたことがあった。ある先生には「そのかっこうでどこに行く気だ！」と言われたこともある。高いヒールの靴で授業に出ているのだが、のちに先生方にお聞きしたところ珍しかったそうだ。三陸であるなんてことは微塵にも意識していなかった。

とにかく何もかも面白かった。鹿に進路妨害されるなんてしょっちゅうで、トンビに魚を盗られ、ワシだかタカだかに威嚇され、ニホンカモシカに見つめられたりもした。ご飯よりイクラの方が多いイクラ丼を食

べたり、港でもらったベビーホタテを食べたり、釣ってきたサバやイカを食べたり、定食屋さんで鮮度抜群のカツオをおまけしてもらったり。食生活が充実していたせいか、病気で寝込んだ記憶がない。今考えると、厳しい冬の寒さすら楽しかった。今まで感じたことのない冷たさの中見た星空を、今でも鮮明に覚えている。

いろいろと思い出すと、あの頃大船渡ではコンビニが12時で閉まっていた。しかし、なんの不便もなかったしそれでよかった。ちよどブレステーションが流行っていて遊んだり、ドライブしたり、釣りに行ったりと夜中の記憶はたくさんある。もちろん夜中までレポートを書いたり、英文を訳したり、テスト勉強をした記憶もある。今のように何でもある生活ではなかったがとても楽しかった！

休日の楽しみは遠出だった。盛岡、花巻、北上、水沢、一関そして仙台。近いところだと釜石、陸前高田、気仙沼。今考えると、「ちよどと行動範囲が広がったかな」と思うのだが、

当時はなんともなかった。「ご飯を食べに行こう！」くらいのノリだった。おかげで就職後、遠くへの出張が苦



令和1年11月9日水産学部4期・5期
6期・卒後30年集の右が北吉
左は4期生の高島先輩、

にならず、「フットワークが軽い」と上司に褒められた。

今の学生はその不便で楽しい暮らしを体験していない。自然とともに暮らすこともない。便利な都会暮らしですっかりオシャレになった。就職活動の時の「学生時代のエピソード」に事欠かかなかった我々と違って、面接のときのネタはどうしているのだろうか。他の大学と同じような学生生活では差別化ができないではないか、と、お節介な心配をしてみよう。これもまた時代の流れか。我々が「新人類」と呼ばれたように、常に新しい価値観で上書きされていくものなのであろう。

さて最後に、先輩達よ！！「学校をうまく使え」学校のコネクションを最大限利用する事をおすすめします。三陸に行つて少しでも生活してみて下さい。そして、学校関係者の皆様、どうか可愛い後輩達を三陸へ誘つてあげてください。

「三陸を想い出す」

34 F M（2009年卒）

大池 晴佳（柴田）

三水会創立40周年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。今、この会報を読んでくださっている皆様に支えられて、三水会は40周年を迎えられたと思います。

『三水会』の三は、三陸を示しています。震災を機に、キャンパスを岩手県大船渡市三陸町から神奈川県

相模原市に移動することになりました。しかし、少しでも三陸町で過ごしたことがある学生にとって、三陸町は第二の故郷になっていることでしょう。初めて三陸に足を踏み入れた時は、とても懐かしい気持ちになりました。まるで祖父の家に遊びに来ているかのような感覚。何を話しているのか解らない方言、学生のためのアパート群、所によって圏外になる携帯電話、見渡す限りの大自然、住民の方々からの暖かくて心地よいおもてなし：このような素晴らしい環境のキャンパスは日本中を探しても少ないと思います。

私が水産学部に入学したのは2005年4月。入学当初は、OBの方々に『三陸の主』と呼ばれるとは思っていませんでした。私は、大学・大学院合わせて10・5年間の長〜い学生生活を送りました。在学生中、水産学部の最長記録を作っているのではないかと思うほどでした。三陸での生活は、水産に関連する生物、化学、物理など幅広い専門用語たっぷりの授業。終わるまで帰れない、でも、友達や先輩たちのお喋りは楽しい学生実験（夜8時まで残ったこともありましたが）。魅力いっぱい個性豊かな先生方。美味しい学食（夕定の寿司は思い出の味です）。掛け持ちしていた部活動。地元の方々と知り合え、楽しかったアルバイト。晩飯を求めて行っていた釣り。夜通しお喋りやゲームをしていた友達たち。満天の星空を見に行つた夏虫山。サンプリングの日々。等々、三陸での思い出は、書き尽く

せないほどあふれています。

素敵な三陸ライフは、博士課程でも続く予定でしたが、修士課程修了式の2日後に東日本大震災が起き、私たちの思い出の詰まった三陸は津波によって、一瞬にして姿を変えました。大学での避難生活中、その後の学生生活でも、大学関係者やOBの方々から様々なご支援をいただきました。この場をお借りして、感謝御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

震災後も調査研究のため、私は1年の1/3程度を三陸研修所で寝泊まりしていました。その際に、三陸を訪れたOBの方々とお話をしていたところ、『あなたは三陸の主だね。三陸の良さを後輩たちに伝えていってね。』と言葉をかけて頂きました。博士課程に在籍している間、後輩と行った際には、三陸での学生生活や三陸の楽しいところ、素晴らしいところ等を話しながら、直接、体験できるようにしていました。その時の学生からは、『三陸でのサンプリングは楽しい』、『三陸で学生生活を送りたかった』、『何回聞いても、漁師さんの一言がわからない』、『本当に海と山がきれい』、

『鹿が見たい』、『また三陸に来たい』等々、各個々が実際に三陸に触れ、感じ



2009年3月11日三陸公民館での卒業式の後、前列左が著者

たことを話してくれました。三陸で過ごした期間は違いますが、彼らの中でも三陸は故郷となっているようで、とても嬉しかったです。

三水会には、年代、地域、職種など個性豊かな(多種多様な)方々が属しています。『三陸』、『水産学部・海洋生命科学部』を介して、年代を超えて語り合え、思い出を共有できる唯一無二の場所です。私も三水会の理事として、長く三水会が継続していけるように尽力いたしますので、よろしくお願いいたします。

コロナ感染症で自由に遊びに行くことが難しい時期ではありますが、コロナが収束した際には、『ただいま』と三陸に行ける日を楽しみに、元気に過ごしていきたいと思えます。また、皆様と三陸の思い出話で盛り上げられる日々を楽しみにしております。

徒然なるままに

F A 18期(93年卒) 山本 禎

同窓生の皆様、お元気で活躍のこととお喜び申し上げます。また、この度四十年の記念ということでお祝い申し上げます。

さて、事務局より三水会会報の原稿を依頼され、快く承ったまでは良かったのですが、何分無趣味であまり文才のない私ですので、何を書くか悩みに悩み、時間だけが経過していき、締め切りが迫ってきたので、ありきたりな自己紹介を兼ねまして私が現在まで転勤等で居住したこと

のある北海道の各地区の紹介をしたと思います。北海道観光の参考になれば幸いです。

私は平成五年三月に大学を卒業し、最初に就職したのが北海道水産物検査協会という団体で勤務先は稚内事務所でした。稚内市は、北海道最北の市で利尻・礼文島行きフェリーターミナルがある道北の観光の拠点です。そこでの私の仕事は昆布の検査でした。当時はまだ昆布製品は日本農林規格(JAS規格)が適応されており、水産物検査協会が格付け機関としての登録を受けていたため、昆布は製品検査が必要でした。

現在でも検査は必要なのですが、日本農林規格から外れたため、今は汎用性ができ、各地に合わせた企画ができたようです。稚内市周辺で生産される昆布は、利尻で代表されるリシリコンブで、当時は所長と二人で利尻島、礼文島、枝幸町と夏から秋にかけて出張しては毎日コンブを検査していたの思い出されます。おかげでリシリコンブに関しては、製品の善し悪しが分かるようになりました。事情があつて、検査協会には二年しかいなかったのですが、ここでの経験は、現職でも役だっていますので非常に良い経験ができたと思っております。

次に北海道職員の普及員試験を受け、現在に至っているのですが、最初の赴任地は函館市でした。函館市はご紹介するまでもないと思いますが、百万ドルの夜景、イカの刺身、トラピスト修道院等、観光するには一日では足りない日本を代表する観

光地です。余談ですが、ご存じの方も多々と思いますが、近年はスルメイカが大不漁で価格が高騰しているため、函館での活イカの刺身はいろいろと工夫されているのでしようね(笑)。話を仕事関係に戻しますが、普及員として函館で五年間勤務をさせて頂きましたが、普及員には大学OBの方も多くおられ、今でも大変お世話になっている水鳥先輩との出会いも函館でした。水鳥先輩と懇意にさせて頂くことで、三水会北海道地区親睦会参加へのきっかけになり多くの先輩方との繋がりがりもでき非常に感謝しております。

函館市の次の勤務地は、紋別市でした。紋別市は流水が接岸する街で、流水砕氷船ガリンコ号で有名です。紋別市は北海道の水産業界の方なら知っていると思いますが、ホタテの産地でもあります。当地で生産されるホタテは時時ホタテと言つて、畑に種を巻いて育てる要領でホタテを育て収穫します。養殖ホタテよりも歯ごたえがあり、養殖とは異なった食感が楽しめます。紋別の観光盛期は流水がくる冬なのですが、その時期にホタテを漁獲してないのが残念なところでもありません。

紋別の後は、函館



2014.2.22北海道地区親睦会、中段左から3人目筆者

の隣町の森町、礼文島、利尻島、そして現在居住している標津町と一つご紹介したいのですが、書いていこうと制限が来てしまいましたので、もし訪れた際のグルメのみ紹介いたします。森町はイカめし、礼文はホッケのちゃんちゃん焼き、利尻はウニ、標津はイクラ丼かな？標津の隣町別海町の尾岱沼は是非北海エビ（シマエビ）を食べて頂きたいです。

とりとめの話にお付き合い頂きありがとうございます。

末尾になりますが、昨年、今年と世界中を席卷しておりますコロナの早期収束とともに皆様のご健勝、三水会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

三水会創立40周年を迎えて

水産増殖学科 5期生（80年卒）
上田 俊郎

三水会創立40周年、おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

早いもので、前回のサンシャイン水族館での30周年記念祝賀会に参加させていただいたのが、昨日のようです。

私も卒業してまもなく40年になり、現在は会社も退職し、親の介護とFPの仕事や、釣りを楽しむ日々を過ごしております。

私にとり三陸での暮らしは、かけがえのない友人、先輩、後輩との出会いの場であり、同じ体験を持つ、

同胞を得られた特別な3年間でした。

その、三陸を知る同窓生の親睦会に、2004年の初の関西地区開催に参加し、2013年からは定期的に、毎年開催するための発起人に加させていただきます、この会が関西地区卒業生の交流の場となりました。

最近の開催では、若手の女性の参加も増え、懇親会発展の手応えを感じていましたが、今年はコロナ禍の影響で地区懇親会の開催ができず、誠に残念です。早くコロナ禍が収束し、懇親会を再開でき多くの卒業生の皆様にお会い出来る日を楽しみにしております。

私事ですが、昨年は「卒業30年、水産学部4期5期6期の集い」に参加させていただき、卒業以来、特に同じ釜の飯を食ったと言える、田中アパート同期との再開に感動致しました。

また、年末には潜水部同期生の家族12名で、三陸慰霊訪問の旅に参加しました。現地の変貌と復興は皆様の知るところ

ですが、私としては、被災し転居した90歳になる、田中アパートの大家さんが、大変お元気

で、突然訪ねた私達のために自らお菓子



2004年2月関西地区親睦会

ました。数年後には、また三陸を訪ねたいと思います。

上がり、楽しい時間を共有できました。今思えば、この日が三水会鹿児島支部の始まりであったように思えます。三水会鹿児島支部は、不定期ではありましたが、年に1、2度の交流会を開催した結果、参加した同窓生同士が仕事などで協力しあい活躍している話を耳にするようになり、絆を深めることができたと思っております。また、三水会九州地区親睦会を鹿児島で開催し、交流の輪をさらに広げることができたと思っております。私は鹿児島を離れることになり、加藤紳氏（現北里大学同窓会鹿児島支部長）の尽力のもと、大学同窓会鹿児島支部が結成され、水産学部から全学へ絆が広がっていることは、嬉しい限りです。

三水会創設40周年を祝して

18FF（93年卒） 小野 要

三水会創設40周年おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

私は大学卒業後、大学院進学のため鹿児島県へ移住することになり、他学部の先輩に連絡したところ、当時鹿児島県在住の故中村義幸先輩を紹介されました。中村先輩からご自宅に招待いただき、美味しい食事と三陸での思い出話に花が咲きました。

鹿児島には知り合いもなく不安だった私にとって、先輩との出会いが大変心強かったことを覚えています。その後もお会いする機会が増える中で、「鹿児島には同窓生が何名ほど在住しているのであろう」という話がかきつけになり、同窓生で交流会を行うことになりました。三水会の協力のもと、当時19名の同窓生が鹿児島県に在住していることがわかり、6名が参加して交流会が開かれました。鹿児島県は、2つの半島の県本土の他に奄美大島、種子島、屋久島といった離島も多く、同窓生が集まるには困難な点があり、日頃から交流はあまりありませんでした。

しかし、当日集まった同窓生は、初対面にもかかわらず「三陸」といった共通の話題があるため、会は盛り

その後、私は熊本に移りました。熊本は学祖北里柴三郎先生の生誕の地であり、大学や同窓会にとってもゆかりのある地で、大学同窓会熊本支部も活発な活動を行っていました。私自身は、熊本県阿蘇郡小国町にある北里柴三郎記念館を度々訪れ、北里柴三郎先生の生家の2階から見る穏やかな小国の風景が大好きでした。また、施設内には、北里柴三郎先生や北里研究所設立時の先生方の遺品なども展示されており、大変興味深く見学しました。私は北里柴三郎先生に接する機会が多い熊本で穏やかに過ごしていました。しかし、2016年4月14日、16日に発生した熊本地震で穏やかだった日々が一変しました。発生直後は、今どうしたら良いのか判断もできず、茫然となっていた事や避難所にも行け



平成20年11月鹿児島市で開催の九州
地区親睦会、後列右より3人目筆者

ず、自家用車の車内で夜が明けの
を待っていた事を覚えています。ま
た、北里柴三郎記念館の被害も大き
く、地震前に訪れた時とは様相が変
わっていました。このような被災の
中、三水会の高橋明義会長をはじめ
め、多くの同窓生の方々から、激励
や支援をいただき大変感謝していま
す。また、皆様の優しさに触れ、こ
れぞ「北里魂」を実感しました。
現在、福岡県北九州市に転居しま
したが、三水会福岡支部の方々には、
未だお会いできていません。一
日も早いコロナ感染の終息を願ひ、
福岡支部の方々との新しい出会いを
楽しみにしています。
最後に、九州地区親睦会の鹿児島、
熊本、福岡で繋いだご縁を大切に、
これからも交流の輪を広げていきたく
いと思っております。また、創設40周
年を祝し、同窓生の益々のご健勝と
三水会のさらなる発展を祈念し、お
祝いの言葉とさせていただきます。

“ 掲 示 板 ”

■ 2021年度三水会定期総会のご案内

下記により2021年度三水会定期総会を開催します。

理事、監事、代議員はもとより一般会員も傍聴できますのでご参加ください。

開催日時：2021年5月22日（土）午後3時～（受付2時30分）

開催場所：北里大学相模原キャンパス MB号館2階講義室

（注）：感染症の影響により定期総会開催は中止になる可能性があります。

詳細につきましては三水会ホームページを、ご覧ください。

開催場所は大学の都合により変更される場合がありますので、ご参加の方は下記の三水会事務局までご確認ください。

TEL：0120-873-135 <http://kitasato-sansuikai.jp/>

- 議 事：1. 2020年度事業報告及び収支決算報告
2. 2020年度監査報告
3. 2021年度事業計画及び収支予算
4. その他

*尚、当日は午後2時より学部へ寄贈する、銘板の除幕式を行ないます。

■ 三水会第15期代議員候補の推薦について

2021年度は三水会第15期代議員改選期にあたります。

本会活動を円滑に運営するために代議員の協力は欠かせません、自薦、他薦は問いません、下記の要綱にてお申し込みくださいますよう、お願い申し上げます。

代議員任期は2021年5月23日から2024年5月の定期総会までの3年間となります。

記

1. 下記をご記入の上、三水会事務局までFAXもしくは電子メールにて三水会事務局までお送り下さい。
 - ① 代議員候補者氏名
 - ② 卒業年度
 - ③ 勤務先名称
 - ④ 連絡先住所
 - ⑤ 電話番号（携帯）
 - ⑥ 電子メールアドレス
2. 代議員の主な活動
 - ① 毎年5月開催の、三水会定期総会への出席
 - ② 三水会主催の事業や集会等への、参加協力
3. 推薦受付は2021年3月末日です。ご不明な点は三水会事務局まで、問い合わせください。

編集後記

今回の三水会報は三水会発足40周年ということで、学部長をはじめ歴代三水会会長から寄稿をいただいております。地域に密着した学部の様子がそれぞれ著わされていて、郷愁を感じさせられます。あらためて、学部の今昔を顧みても良いかもしれません。

また、2020年は新型コロナのパンデミックから始まり、現在も不自由な生活を強いられています。会員の皆様も大変な苦勞をされていると思います。少しでも早く、新型コロナ感染の終息を迎えて会員相互が心置きなく親睦を深められるようになることを願っております。